

令和6年2月15日

南の風 OQT (オリンピック女子最終予選) 特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ハンガリーとの後半戦直後は、一進一退の攻防が続きます。高田選手のミドルシュート、赤穂選手のレイアップで日本がリードしますが、ターンオーバーも出てすぐに追いつかれると、ハンガリー4番ドゥベイ選手にレイアップを決められて41-42と逆転を許します。

日本はズレを上手く作れずオープンでのシュートが打てません。高田、ステファニー選手のフリースローで追加点を奪いますが、1ポゼッションで追いつける状況になります。終了間際に宮崎選手のレイアップで2点差にしますが、ドゥベイ選手に3Pシュートを決められて、48-53で4Qを迎えます。

逆転勝ちを狙う日本は4Q、まず赤穂選手のレイアップ、林選手のトップからのディープ3Pシュートが決まり追いつきます。さらに赤穂選手が宮崎選手からのパスを受けて、リバースレイアップ決め、残り8分半で55-53とします。

しかしハタール選手(208cm)にインサイドで決められ、ドゥベイ選手に3Pシュートを沈められ5点差をつけられます。ここでタイムアウトを取った日本は、山本選手が3Pシュートを2本決め得点源になります。さらに詰めたい日本ですがレリック選手に3Pシュートを許して、残り4分で63-69になります。何とか打開したい日本は、宮崎選手がレイアップと3Pシュートを決め3点差まで迫ると、山本選手がスティールから高田選手が決めて、残り2分半で70-71と迫ります。

残り2分、ハンガリーはドゥベイ選手がインバウンズプレーから得点するが、日本は宮崎選手が3Pプレーで73-73の同点にします。しかしハンガリーはユハーシュ選手が3Pシュートを決め、残り1分半で3点差になります。相手の攻撃を凌ぐ日本ですが、リバウンドが奪えません。残り53.9秒です。続いてハンガリーは、レリックがフリースローを決めてリードを4点差に広げます。日本はすぐに宮崎選手がレイアップを決めます。続けて相手のターンオーバーから、宮崎選手が3Pシュートを打ちますが、これが決まりません。そこからファウルゲームになりますが、75-81でタイムアップとなります。この結果、パリ五輪出場は最終カナダ戦の結果次第となりました。

この試合日本は、宮崎、山本選手がチームトップの15点、高田選手が14点をマークしました。2Pシュートの成功率は56.25%(18/32)、3Pシュートの成功率は32.14%(9/28)をマークしましたが、リバウンドは23-43と20本差をつけられてしまいました。セカンドチャンス(ハンガリー19点-2点日本)での差が影響してしまいました。

記者会見で恩塚ヘッドは「アウェーで非常にタフな状況の中、最後まで戦い抜いてくれたと思っています。途中オフェンスが停滞した時間帯にディフェンスも少し緩くなり、流れを持っていかれてしまった。それが敗因だと思っています。選手たちは勝利に値する力を持っています。次の試合、勝利に導けるように努力します」

私の感想です。たいへん残念な結果でした。ハタール選手(208cm)にやられるのはある程度織り込み済みだったはずですが、日本のストロングポイントである3Pシュートを抑えに来ることも日本は分かっていたと思います。恩塚ヘッドがいうように、オフェンスが停滞した時のオフェンスの攻め方が弱かった気がします。気持ちをリセットして、切り替えてカナダ戦に向かってほしいと思います！！